

ま

ち

の

話

題

まちで見つけた
ニュースをどうぞ!



このコーナーは、いろいろな出来事や話題を紹介します。皆さんの身近な情報をお寄せください。

〈連絡先〉
秘書広聴課広報係
TEL 22-3281
FAX 22-3124
Eメール info@city.saiki.oita.jp

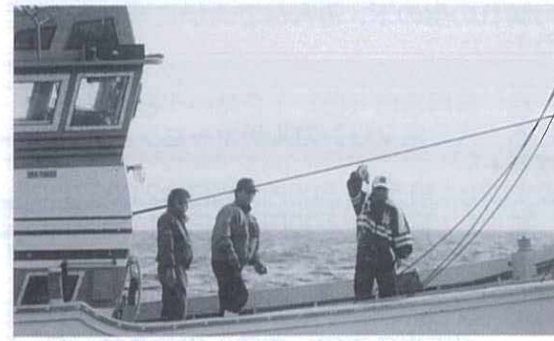
春漁本番 モジャコ漁が 解禁

モジャコ漁が解禁となった四月十五日の早朝、市内蒲江と米水津から、四十六隻のモジャコ漁船が、豊後水道に向けて出港しました。
モジャコとはブリの稚魚のことで、ブリ養殖用の種苗として利用されます。

蒲江西野浦の県漁協下入津支店では、同日の早朝六時に、県知事からの特別採捕許可証が三十隻の漁船に交付され、朝日を浴びながら出港しました。捕獲量四百七十五万五千匹を目指し、漁は今年七月まで続きます。



交付された特別採捕許可の旗



海にお神酒を注いで漁の安全を祈願



大漁でありますように

佐伯春の思い出

さいき春まつり

四月二日と三日の二日間、佐伯文化会館下のお祭り広場を主会場に、さいき春まつりが開催されました。新佐伯市初となる今年の春まつりには、一日間で、延べ約七万人が来場し、さまざまな催しを楽しみました。
初日は、開会式でミス佐伯の認定式やもちまきが行われた後、特設ステージで歌謡ショーやダンスの披露がありました。夜は、毎年恒例となったダンスバトルが行われました。優勝賞金三十万円を目指し、全十三チームによる熱い戦いが繰り広げられ、



3,000人を超える人々が城山の頂上を訪れました



山際通りに映える大行列



のんびりと菜の花畑を散策

会場は熱気に包まれました。昨年大好評だった竹灯籠も、今年は規模を拡大し、夜の城山と山際通りを、約七千本の竹ぼんぼりの灯りで照らし出しました。

城山の頂上には、新市誕生を記念して、鶴谷城がイルミネーションで復活。訪れた人々は、記念撮影をして、幻想的な佐伯の夜景を楽しんでいました。
翌三日は、にわか雨があつたものの、山際通りを練り歩く毛利藩大行列や、佐伯駅前から大手前までを華やかに彩る市中大パレードなどがあり、多くの見物客でにぎわいました。

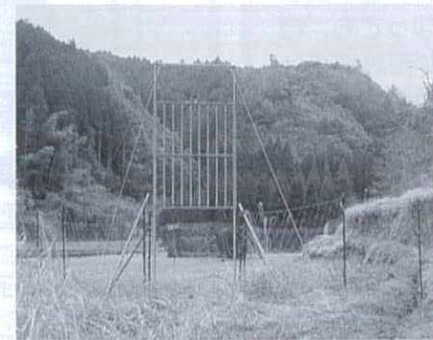
やよい菜の花まつり

四月三日、「第四回やよい菜の花まつり」が、道の駅やよい周辺で開催されました。
道の駅やよいのイベント広場は、たくさんのお花で飾りつけられ、特設ステージでは、恒例のモチまきや長陽会職員によるソーラン節の披露、やよい榊陣太鼓の演奏などがありました。まつりを大いに盛り上げました。

また、上小倉の菜の花畑周辺で行われたスタンプラリーには、およそ四百人が参加し、スタンプ集めを楽しみました。
このほか、協賛行事として「菜の花健康ウォーク大会」も行われ、およそ百人が8キロのウォーキングコースを散策。
この日は、市内外から約五千人が来場し、ゆったりとした春の一日を満喫していました。

県内初の誘導型 囲いワナを設置

このほど、野生のシカによる農作物への被害を防ごうと、直川の2地区と、宇目の2地区に、誘導型囲いワナが設置されました。



直川の井大地区に設置されたワナ

このワナは、周囲を高さ約2メートル、総延長50~200メートルのステンレス入りの網で囲み、その入り口に熱感知器を取り付けたさくを設置したものです。囲いの中にエサとなる干し草を置き、シカを誘い込みます。シカの出入りを熱感知器が捉え、自動的にさくが下りる仕組みで、うまくいけば一度に10頭程度捕獲できます。

県内初となるこのワナに、地元農家の皆さんは期待を寄せています。

仙崎つつじ祭り



ピンゴ大会で景品をゲット!

4月2日、蒲江西野浦の仙崎公園で、「仙崎つつじ祭り」がありました。

当日は、会場内のステージで、子どもたちによる太鼓の演奏や、来場者全員が参加したピンゴ大会などがあり、祭りを盛り上げました。また、会場には地元名物の「仙崎つつじそば」などの屋台があり、多くの人でにぎわいました。

空の公園ふじつつじ祭り



散策を楽しむ子どもたち

4月3日、米水津宮野浦の空の公園周辺で、今年で2回目となる「ふじつつじ祭り」がありました。

この日は、にわか雨に降られるというあいにくの天気でしたが、子どもたちが楽しみにしていたイワシの丸干し絶叫大会や宝探しが行われ、会場はにぎやかな歓声に包まれました。

悪天候で客足は鈍りましたが、にわか雨もまた春の風情に一興を添えたお祭りとなりました。